

2014年度 事業計画（抜粋）

（2014年4月1日から2015年3月31日まで）

学校法人 明 星 学 苑

2014 年度事業計画

【目 次】

I. 明星学苑が目指すもの	1
1 建学の精神・教育方針・校訓・明星学苑がこれからも変わらず目指すもの	1
2 各校の教育目標	1
3 各校の教育内容と教育方法	2
II. 学苑の確かな未来に向けて－「明星学苑 Action100」の推進（省略）	
1 学苑の使命を果たすために～「明星学苑 Action100」の目的～（省略）	
2 「明星学苑 Action100」を構成する 6 つの柱（省略）	
3 「明星学苑 Action100」6 つの柱の連動（省略）	
4 これからの「明星学苑 Action100」（省略）	
III. 2014 年度事業計画（省略）	
1 はじめに（省略）	
2 重点事業（省略）	
(1) 創立 100 周年に向けた新しい明星学苑像づくり（省略）	
(2) 責任と信頼に基づく学苑経営体制の整備（省略）	
(3) 人材の活性化－学苑の基盤を支える人事制度の改善－（省略）	
(4) 運営基盤の整備（省略）	
(5) キャンパス環境の整備（省略）	
IV. 各部門の事業計画の概要	3
1 明星大学	3
2 いわき明星大学（省略）	
3 府中校（府中校全体、明星中学高等学校、明星小学校、明星幼稚園）（省略）	
V. 2014 年度予算の概要（省略）	
1 予算編成方針（省略）	
2 予算編成の結果（省略）	
資料	
別表 1（設置校在籍者数）	（省略）
別表 2（資金収支予算書）	（省略）
別表 3（消費収支予算書）	（省略）

I 明星学苑が目指すもの

1. 建学の精神・教育方針・校訓・明星学苑がこれからも変わらず目指すもの

<建学の精神>
=
「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」

【教育方針】 1. 人格接触による手塩にかける教育 2. 凝念を通じて心の力を鍛える教育 3. 実践躬行の体験教育	【校訓】 健康、真面目、努力
---	------------------------------

《明星学苑がこれからも変わらず目指すもの》
明星学苑は、建学の精神である「和の精神のもと、世界に貢献する人を育成する」
ことをもって社会に寄与することをその使命とする。
そのために、学苑が設置する学校は、校訓「健康、真面目、努力」を旨とし、
一人ひとりの学生・生徒・児童・園児を大切に徳育・知育・体育の調和を目指す
「人格接触による手塩にかける」教育を行ない、着実に教育の成果を上げることに努める。

2. 各校の教育目標

明星大学	自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成
いわき明星大学	全人教育に基づいた、地域社会に貢献できる人の育成
明星中学高等学校	自律心を持った自立した人の育成
明星小学校	正直なよい子の育成
明星幼稚園	よい子の育成

3. 各校の教育内容と教育方法

<p>明星大学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得 ●幅広い教養を身につけた自立する市民の育成 ●心と体の健康管理の教育 ●高度専門職業人及び幅広い職業人の育成 ●体験教育を通して生涯に亘る学習意欲を獲得し、自らの歴史を綴ることができるようにする教育
<p>いわき明星大学</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●大学で学ぶ意識を高める少人数・演習形式の初年次教育 ●さまざまな学修歴をもつ学生に対応した効果的な基礎教育 ●時代を見据え、地域に根ざし、体験を通して学ぶ専門教育 ●専門を超えた探究心と充実した心身を育む教養教育 ●きめ細かな個別指導と快適な自習環境の提供による学習支援
<p>明星中学高等学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●凝念教育 ●3ステージ制による6カ年一貫教育 ●文化等の違いを体験し、国際理解を深める教育 ●地域社会との連携による教育(ボランティア活動等の体験教育) ●学苑設置校(幼・小・大)との連携とIT教育
<p>明星小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●凝念教育 ●五正道(正しく視る、正しく聴く、正しく考える、正しく言う、正しく行う)の実践 ●豊かな心を育てる教育(心の教育、道徳・躰、体験学習、きめ細かな生活指導等) ●確かな学力をつける教育(授業の充実、きめ細かな学習指導等) ●総合学園の特色を生かした教育
<p>明星幼稚園</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「みなしずか」(凝念)の実践 ●一人ひとりを大切にし、心身ともに元気な子を育てる保育 ●基本的生活習慣の確立 ●体験を通して学ぶ ●総合学園の特色を生かした保育

IV 各部門の事業計画の概要

1. 明星大学

(1) 基本方針

明星大学は、設置者である学校法人明星学苑の建学の精神に基づき、学苑の高等教育機関として「自己実現を目指し、社会貢献ができる人の育成」を教育目標としています。この教育目標を達成するために、「教育の明星大学～主体的に行動する学生を育て、教育改革をリードする大学～」をビジョンとして掲げ、学部学科においては「学士力」の獲得、大学院においては高度専門職業人や研究者の養成を柱に、以下の教育方針に基づき教育研究活動を展開します。

- 現代社会に生きるものとして必要不可欠な基本的知識と技能の習得
- 幅広い教養を身につけた自立する市民の育成
- 心と体の健康管理の教育
- 高度専門職業人及び幅広い職業人の育成
- 体験教育を通して生涯に亘る学習意欲を獲得し、自らの歴史を綴ることができるようにする教育

また、この教育方針の基で教育の在り方を不断に見つめ直し、「教育の明星大学」を具現化する教育研究活動を通し、将来に亘って社会・時代の要請に応え続けるための、教育研究活動の質的向上及び安定した財政基盤の構築を目指して、2015 年に向けた以下のロードマップを策定しました。

ここで掲げた目標（指標）の進捗状況や達成状況を、「MI21 プロジェクト※」の活動を通して継続的に検証し、教育改革を推進していきます。

- ① 進路決定率（90%以上）
- ② 志願者数（一般入試 20,000 人以上）
- ③ 離籍率（4.0%以下）
- ④ 科学研究費補助金獲得額（私学 50 位以内）
- ⑤ 帰属収支差額比率（収入超過率 5%以上）

※ MI21 プロジェクトは、中長期的な重点戦略（目標）間の関係を明らかにした、「全学戦略マップ」を基に、「バランス・スコアカード」を活用し、各戦略の具体的な成果目標を定め、PDCA サイクルを回しながら事業を展開する、全学的な取り組みです。

この取り組みは、2012 年度の文部科学省補助金事業「未来経営戦略推進経費（経営基盤強化に貢献する先進的な取り組み）」に採択されました。

(2) 2014 年度の重点事業

開学 50 周年を迎える本年は、本学の持つ教育・研究のシーズを集結し、その成果を広く社会に発信するとともに、学生が中心となっていくプロジェクト活動、著名人等を招聘した講演会、シェイクスピア関連企画等を記念事業として実施し、開学 100 周年に向けた発展の基盤を整備していきます。

また、先に述べた教育目標・方針を実現するため、今年度は以下の事業を重点事業として掲げ、教育研究活動を推進・展開していきます。

- ① 50周年関連事業の推進による「教育の明星大学」としての社会的地位の向上
- ② 経営基盤確立に向けた改組改編の推進
- ③ 個別指導・支援体制の強化
- ④ 初年次教育・支援体制の充実
- ⑤ キャリア教育の充実と就職支援体制の強化
- ⑥ 教育の質的転換に向けた取り組み
- ⑦ 通信教育の充実
- ⑧ 研究支援体制の充実
- ⑨ 附属教育研究機関の充実
- ⑩ 大学の国際化の促進
- ⑪ 自己点検評価活動の推進
- ⑫ 情報公開体制の充実
- ⑬ 地域連携事業の推進
- ⑭ 施設設備の充実
- ⑮ 大学運営基盤の充実に向けた組織改革の推進

それぞれの重点事業に対する明確な事業目標を以下の通り掲げ2014年度の事業を展開します。

① 50周年関連事業の推進による「教育の明星大学」としての社会的地位の向上

「教育の明星大学」としての本学の認知度・知名度を向上させるため、50周年関連事業を円滑に推進します。

【事業の目標 ①-1】 明星大学開学50周年関連事業を推進する

- ・ 学内外の関係者を招待した50周年記念式典を、本年10月に実施します。
- ・ 50周年関連事業として、本学の認知度・知名度を向上させるため、公開講座、稀覯書展、学生が中心となって行うプロジェクト活動等の事業を円滑に推進します。
- ・ 50周年関連事業を通して、教育環境の整備や奨学金基金等のための募金活動を積極的に展開します。

【事業の目標 ①-2】 広報活動の軸として「教育の明星大学」をアピールする

- ・ 広報戦略に基づき、「教育の明星大学」を軸に一貫したブランドイメージをもった広報活動を積極的に展開します。
- ・ 本学の特色を積極的にアピールし、「教育の明星大学」ブランドを社会の中で確立するため、新聞・雑誌等の媒体社やマスコミ、その他オピニオンリーダーとの交流を深め、明星ファンの拡大を目指します。
- ・ 50周年関連事業の一環として展開している特別広報活動を通して、「教育の明星大学」ブランドのさらなる確立を目指します。

② 経営基盤確立に向けた改組改編の推進

将来に亘って社会に有為な人材を供給し続け、併せて経営基盤確立のため、新たな学部・研究科の設置を継続的に検証するとともに、学生確保に向けた募集活動の強化を図ります。

【事業の目標 ②-1】改組改編計画の推進

- ・ 将来に亘って社会に有為な人材を供給し続けるとともに、入学定員を確保するため、学部学科のマーケット・トレンドを調査・分析し、改組改編検討委員会において、新たな学部・研究科の構想案を策定します。

【事業の目標 ②-2】進学を推奨できる大学としての評価を確立する

- ・ 前年度の学生募集活動の検証や外部環境（高校生数、進学率、進学動向、家計状況、他大学の動きなど）の情報収集と分析に基づく適切な募集・広報活動を展開します。
- ・ オープンキャンパスや大学見学会などのイベントの充実を図り、受験生や保護者との直接交流の機会を拡大します。
- ・ 教職員による高校や予備校訪問等のマーケティング活動を、さらに強化します。
- ・ 受験生向け進学サイト等への掲出をはじめ、各種媒体（大学案内・リーフレット・HP等）を通して積極的に情報提供を行います。
- ・ 合格者が、安心して進学をできるように、合格者を対象にした大学見学会や入学前教育を充実させます。
- ・ 特に、女子学生確保に重点をおいた事業として、女子校訪問の強化やウェブサイトなどで女子志願者向けの情報を積極的に発信します。

【事業の目標 ②-3】新たな入試方法等を確立する

- ・ 本学のアドミッションポリシーに沿った、目的意識の高い学生の入学を目指すために、推薦入試を含めた入試方法等の再検討および改善を行います。
- ・ Web版募集要項やインターネット出願の充実等の出願方法の見直しを行い、受験生の利便性向上を図ります。

③ 個別指導・支援体制の強化

制度導入から5年目を迎えたGPA制度や「学生カルテ」、学力アセスメントテストの結果等の積極的な活用により、個々の学生の実態を的確に把握するとともに、教職員と保護者が密接に連携することで、学生の個別指導体制を強化し、「人格接触による手塩にかける教育」を実践します。

【事業の目標 ③-1】学生への個人指導・支援を強化する

- ・ 学生の授業出席状況や成績管理等の学生情報の管理体制を充実させ、きめ細かい個人指導・支援体制を構築します。
- ・ 離籍要因の分析に基づき、進級基準等の見直しを含めた対応策を策定し実行します。
- ・ 学生生活全般に対する支援体制及び環境の整備を促進します。
(学生カルテ活用の促進、心と体の健康促進、ピアサポートシステムの構築等)
- ・ 学生が、大学における学修を円滑に進められるようになることを目的に、基礎学力の向上を主眼としたリメディアル教育を充実させます。

【事業の目標 ③-2】 クラブ・サークル活動の充実を図る

- ・ 2013 年度に竣工した運動系クラブの学生寮を適切に管理・運営し、さらなるクラブ強化に努めます。
 - ・ 育星会*の協力を仰ぎながら、クラブ・サークル活動への支援を充実させます。また、運動系・文化系を問わず強化クラブへの支援を継続します。
 - ・ オープンキャンパスや入学式での説明会等の学友会主催イベントを拡大し、学生のクラブ活動への関心を高めます。
- ※ 学生の保護者で構成する会

【事業の目標 ③-3】 保護者との双方向的コミュニケーションを強化する

- ・ 学生カルテ、学習ポートフォリオ等を活用した学生の個別指導の内容や授業の出席状況等の情報を、個人情報保護を前提とした Web の活用によって効率的に共有できる体制を充実させます。
- ・ 保護者と教職員が直接コミュニケーションを取ることができる、育星会総会および地区懇談会を育星会と連携して充実させ、大学に対する保護者の意見・要望を把握し、満足度の向上を目指します。

④ 初年次教育・支援体制の充実

全学的に 1 年生の前期に必修科目として設置している「自立と体験 1」や基礎ゼミ等の授業を通して、個々の学生の実態を早期に把握し、学習面・生活面ともに大学生活に適応できるように支援・指導を行っていきます。

【事業の目標 ④-1】 明星大学で学ぶ学生としての自分を理解し、各自の理想や目的を明確にさせる

- ・ 「自立と体験 1」を担当する教員の研修や授業実施直後のミーティングを通して、授業内容・方法のさらなる充実を図ります。
- ・ 「自立と体験 1」を担当する TA・SA を対象とした研修会を充実させることで、学生サポーターの質を向上させ、ピアサポート体制を強化します。
- ・ 学習面・生活面において支援を要する学生に対する、リメディアル教育やカウンセリング等の個人指導を充実させます。

⑤ キャリア教育の充実と就職支援体制の強化

「自立と体験 3・4」等のキャリア教育科目の内容や就勝プロジェクト、インターンシップその他の就職対策事業を充実させ、キャリア教育及び就職支援体制を強化します。

【事業の目標 ⑤-1】 学生の進路を実現する

- ・ 学部学科において、学生自らが納得した進路を実現できるように、就職意識の醸成はもちろん、進学や研究継続の手段も含めた包括的な指導を実施します。
- ・ 自発的に進路を決めることが出来る学生を育成するため、初年次以降のキャリア教育や充実した就職講座を提供することによって、学生が社会に出るための能力を身につける支援体制を強化します。
- ・ 「キャリアアドバイザー」制度等を充実させ、教職共同で学生の就業意識の醸成に向けた

取り組みを推進します。

【事業の目標 ⑤-2】 教員採用試験対策講座の充実を図る

- ・ 「教職センター」を中心とした教員採用試験対策講座等や教員経験者による個別指導を充実させ、教員採用試験合格者数の増加を目指します。
- ・ 前年度の教員採用試験の動向を分析し、自治体が独自に設置している教師養成塾の活用方法を含めた効果的な教員採用試験対策を構築・実施します。

【事業の目標 ⑤-3】 学生が納得できる就職を実現する

- ・ 学生が、様々な選択肢から納得できる就職を実現するため、企業、商工会、商工会議所および自治体等との連携を強化します。
- ・ 地域企業や同窓会組織と連携した、特色ある「学内合同企業セミナー」を充実させ、学生の職業選択に関する視野を広げます。
- ・ 企業ニーズの把握を目的に、過去に本学の採用実績のある企業との連携を強化します。
- ・ 就職支援等を目的とした課外講座である「就勝プロジェクト」を始め、就職に役立つビジネスマナー講座、情報処理に関する講座、公務員講座等を展開します。
- ・ 上場企業にターゲットを絞った発展的な就職支援プログラムの充実を図ります。

【事業の目標 ⑤-4】 インターンシップの量的・質的充実を図る

- ・ インターンシップ受入企業の量的・質的な拡大を目指し、受入企業の新規開拓に注力します。
- ・ インターンシップのさらなる充実を図るために、学生へのインターンシップ事前講義を強化します。
- ・ インターンシップと正課のカリキュラムとの効果的な連動を目指すため、インターンシップの単位認定化を促進します。

【事業の目標 ⑤-5】 キャリア教育を通し学生の成長を促すカリキュラムを強化する

- ・ 教育目標である「自己実現を目指し、社会貢献ができる人の育成」を達成するため、「自立と体験1・2」と「自立と体験3・4」との連携を促進し、体系的なキャリア教育を提供します。
- ・ 正課科目と正課外科目の連動により、キャリア教育のさらなる充実、体系化を図るための検討と体制を整備します。

【事業の目標 ⑤-6】 ボランティアを通して地域・企業のニーズに応える人材と知財を提供する

- ・ ボランティアセンターにおいて、学生の自立性、主体性の一層の向上および体験教育の実現の機会であるボランティア活動に対する支援体制の充実を図ります。
- ・ ボランティア活動の機会を拡大するため、学外のボランティア団体や地域と大学の連携体制を強化します。
- ・ 「東日本大震災」の被災地への組織的・継続的なボランティア活動を推進します。
- ・ 正課科目として2015年度より開講する「ボランティア実践1・2」の準備を進めます。



本学は、2011年3月に起きた「東日本大震災」による被災地への組織的・継続的なボランティア活動を行っています。昨年は、いわき明星大学と合同で、清掃活動や仮設住宅への訪問等の支援活動を行いました。本年も引き続き被災地支援に注力していきます。（写真は福島県いわき市フラワーセンターでのボランティア活動の様子）

⑥ 教育の質的転換に向けた取り組み

社会が求める能力を効果的に養成するために、学生の学力実態を把握し、実態に応じた教育課程の再編や授業方法の改善に向けた検討に着手します。

【事業の目標 ⑥-1】 学生の成長を促すカリキュラムを強化する

- ・ プレイメントテスト（アセスメントテスト）を拡充し、学生の学力に応じた授業運営および基礎学力の向上を図ります。
- ・ 本学の教育方針である「体験教育」を具現化するため、より広範囲の授業においてアクティブラーニングを取り入れ、学生主体の教育を精力的に展開します。
- ・ 2013年度に再整備した学部学科の3つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）に沿った、より体系的な教育課程を構築するため、カリキュラムマップや科目難易度ナンバリングの全学的導入を促進します。
- ・ 社会が求める能力を効果的に養成するため、学生の学力実態に応じた、学生の成長を促す教育課程の再編や教育内容・方法の改善に向けた検討に着手します。
- ・ 教育の質的保証の指標として全学的に導入したGPA制度を活用した教育・履修指導システムの改善・構築を進めます。
- ・ 学生の履修登録状況を確認した上で、実態の把握および分析を行い、適切なクラス数を設定します。

【事業の目標 ⑥-2】 大学改革を行う教員の意識改革とFD活動を促進する

- ・ ヴィジョンとして掲げている「教育の明星大学」を具現化している取り組みを、全学的に周知することで、教員の意識改革を促すなど、授業改善につながる取り組みを促進します。
- ・ 全学的なFD活動として、授業内容、教育方法の改善に関する包括的な研修を行い、部局別のFD活動として、部局の専門性を考慮した授業スキル等に関する研修を計画的に行います。
- ・ 新任教員に対して、本学の教育方針や教学諸事項に関する学内研修を行います。また、外部研修等へ積極的に派遣します。
- ・ 学生による授業アンケートを活用した改善活動やピアレビューを促進します。その一環として、授業公開や研究授業を実施します。

【事業の目標 ⑥-3】 在学生との双方向的なコミュニケーションを図るための体制の整備

- ・ ICT を積極的に活用した授業アンケート・学生生活実態調査等を通して学生ニーズの把握を行い、改善に向けた取組を実施します。

【体験教育】



明星大学の伝統的な教育方針である「体験教育」を、時代が変わっても重視していきます。

理工学部では、必修科目「プロジェクト1」で学生が学んだことを、近隣の小・中学生を対象に、わかりやすく、科学の楽しさを教える企画を毎年実施しています。(写真は2013年8月に行われた「夏休み科学体験教室」の様子)

⑦ 通信教育の充実

本学の強みの一つである通信教育課程の充実を図り、広く社会に大学教育を提供します。

【事業の目標 ⑦-1】 意欲・専門知識・実践力を持った人材を育成して提供する

- ・ 現職教員の他教科免許状の取得や認定こども園法改正に伴う保育士資格等の取得を軸とした情報発信を強化します。
- ・ 都道府県および市町村等の教育委員会や学校現場のニーズを収集するための、連携強化に繋がる新たな施策を展開します。

【事業の目標 ⑦-2】 個々人の生活環境にあった通信教育を利用した学習機会の情報を提供する

- ・ 2010年の改組改編により、取得可能な教員免許状が増加したため、教員免許に係る市場ニーズを的確に把握し、「教育の明星大学」を打ち出した対象別情報発信を強化します。
- ・ 過去の入学者状況からマーケットをセグメントし、本学の入学者数に影響の大きい地域での重点的な入学説明会を実施します。

⑧ 研究支援体制の充実

教員個々の研究活動を支援するための体制を充実させ、学術世界への貢献を促進します。

【事業の目標 ⑧-1】 研究力を向上させ外部資金を獲得する

- ・ 科学研究費、委託研究費、国および民間の各種助成金等の獲得に向けた支援体制を充実させます。
- ・ 日本学術振興会が行う特別研究員制度および国際研究交流事業等を積極的に活用することで、本学の恒常的な研究力向上を目指します。
- ・ 外部資金獲得を目指す教員へのインセンティブ制度を継続して行います。

【事業の目標 ⑧-2】 教員の教育研究能力開発体制を構築する

- ・ 本学の研究者の研究とトレンドとのマッチング作業等のプレアワード業務から、研究マネジメント等のポストアワード業務まで研究全体をコーディネートする URA*を導入すること

で、大型外部資金の獲得を目指します。

- ・ 本学の研究者が行う研究に関して、国内外での研究の位置付けや実績を客観的指標に基づき分析し、学内シーズの把握に努めます。
- ・ 学内外の研究者との共同研究を進めるための支援体制を継続します。

※ University Research Administrator の略です。大学等において、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行うことにより、研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化等を支える業務に従事する人材を指します。

⑨ 附属教育研究機関の充実

大学の研究力を強化するため、既存の附属教育研究機関の充実を図ります。また、2014年度に新たな附属教育研究機関として設置した「発達支援研究センター」の円滑な運営を行います。

【事業の目標 ⑨-1】 既存研究機関の機能の検証と新機関の設置検討

- ・ 2014年度より設置される「明星大学発達支援研究センター」の運営を適切に行います。
- ・ 地域・社会貢献に資するため、既存の附属教育研究機関の機能強化に向けた検討を行います。

⑩ 大学の国際化の促進

多様な文化・価値観に接することで、学生の内的成長を促し、自立性を涵養するため、在学生の海外留学や外国人留学生の受け入れを促進します。

【事業の目標 ⑩-1】 在学生の海外留学と外国人留学生の受け入れを拡大する

- ・ 海外学術交流提携校との交流を充実させます。
- ・ 国内にある日本語学校との交流を活性化し、受け入れ留学生の拡大を図ります。
- ・ 「留学生支援課」における留学生の学習支援や生活支援を充実させるとともに、その強みを生かした積極的な情報発信を行います。
- ・ 日本語の教員を活用して、留学生の学習支援を促進し、新たな留学生のための新規科目の検討に着手します。

⑪ 自己点検評価活動の推進

2011年度の大学基準協会による認証評価における指摘事項に対応するため、各部局で策定した改善計画に基づき、改善活動を推進するとともに、今年度は、その状況を改善報告書として大学基準協会に提出します。

【事業の目標 ⑪-1】 自己点検評価活動を通して大学の質を保証する

- ・ 2011年度の認証評価結果における指摘事項に対する、全学および各部局で策定した改善計画に基づく改善活動を推進していきます。
- ・ 2014年度は改善計画に基づく改善活動の改善状況をとりまとめ、大学基準協会に改善報告書として提出します。

⑫ 情報公開体制の充実

本学の教育情報等の公開体制を整備・充実させ、積極的な情報公開を行います。併せて、学内の情報管理体制の充実を図ります。

【事業の目標 ⑫-1】 情報公開体制の充実を図る

- ・ 学内外の関係者からの情報開示請求があった場合の対応方法や体制に関する諸規程を整備し、適切な情報開示体制を構築します。
- ・ 教育情報の公開に関するガイドラインに基づく、適切な情報公開を行うとともに、学内情報の管理体制を整備します。

⑬ 地域連携事業の推進

今後さらに地域社会と密接に連携し、地域に立脚した大学として、社会的使命を果たしていくための体制整備に着手します。また、運営体制を充実させるため、組織の再編に着手します。

【事業の目標 ⑬-1】 地域・企業のニーズに応える人材と知財を提供する

- ・ 日野市、八王子市、青梅市等の地都市役所、商工会およびコンソーシアム等との連携を強化し、地域ニーズに応える知財提供の体制を整備します。
- ・ 地域企業や自治体との連携を充実させ、地域人材の育成に寄与する事業を展開します。
- ・ 企業ニーズとのマッチングを目的とした、より効果的な技術展示会等に積極的に参加します。

【事業の目標 ⑬-2】 イベント企画を通して地域に立脚した大学を目指す

- ・ 大学の研究成果を地域に還元するため、50周年関連事業と連動した公開講座や各種イベントを推進します。
- ・ 50周年関連事業の一環として、大学所蔵の歴史的価値のある稀観書を、昨年引き続き積極的に公開していきます。
- ・ 地域貢献の一環として、昨年より行っている本学図書館の一般開放を拡充します。
- ・ 学園祭において、地域と連携した企画を検討し、実施します。

【明星大学所蔵稀観書】



約 88 万冊の蔵書を有する明星大学図書館には、世界的にも大変貴重な稀観書も多数所蔵しております。昨年より、その一部を特別企画「稀観書展」として、広く社会に公開しております。今後も改修された資料図書館において積極的に稀観書を公開していきます。(写真は本学が所蔵するガリレオ・ガリレイ「太陽の黒点についての手紙」)

⑭ 施設設備の充実

今年度より開設するデザイン学部の教育環境を整備するため、キャンパスの再開発を引き続き進めます。

【事業の計画 ⑭-1】再キャンパス開発を推進する

- ・ 2010年度に開設した教育学部および2014年度に開設するデザイン学部の教育環境を整備・充実させるための新棟32・33号館の建設事業を進め、2015年2月の竣工（予定）を目指します。
- ・ 本学が保有する稀覯書や歴史的資料を学生、研究者または広く社会に公開できる環境を整備するための資料図書館（15号館）の改修事業を進め、2014年6月の竣工（予定）を目指します。



2010年度に開設した教育学部および2014年度に開設するデザイン学部の教育環境を整備・充実させるための新棟32・33号館の建設事業を進め、2015年2月の竣工（予定）を目指します。新たな教育環境のもとで、学生が「自己実現」に向けてチャレンジします。
（新しい教育棟32号館のイメージ図【2015年2月竣工予定】）

⑮ 大学運営基盤の充実に向けた組織改革の推進

教育改革を一段と推進するための学生支援体制ならびに業務効率化のための管理運営体制の充実を図るための職員のスキル向上と組織再編の検討に着手します。

【事業の計画 ⑮-1】学生支援の向上に向けた職員の意識改革を推進する

- ・ 「仕事を通じて自分を育て、人を育てる職場環境」を基盤として、長期的視野にたった体系的・継続的教育の取組みを行います。
- ・ 目指す職員像を明確にした目的別の全学および対象者別（若手職員・ミドル層・全職員）の職員研修を実施します。
- ・ 部署別SD活動を活性化し、業務知識、スキルの向上を図り、学生支援体制を強化します。
- ・ 外部機関による通信教育講座の受講や国内留学等を支援・促進し、専門的スキルの向上を図ります。

【事業の計画 ⑮-2】組織の枠を越えて、教職員が情報と意見を交換する場を提供する

- ・ 大学の発展を支える教員と職員が、組織の枠を越えて協働できる体制整備を目的として、教職員共同研修を実施します。

【事業の計画 ⑮-3】 管理体制の充実を図る組織の再編を促進する

- ・ 学生支援体制をさらに充実させるとともに、業務の効率化を促進するため、各部署の業務実態の把握と業務分掌の見直しに着手します。

<以下余白>